

第1回 丹波市生涯学習推進審議会（摘録）

開催日時	令和8年3月5日（木）午後7時00分 開会 ～ 午後9時00分 閉会
開催場所	丹波市立氷上住民センター 大会議室
出席者	<p>【委員】 岡田 龍樹委員、萬浪 佳隆委員、橋本 崇史委員、三原 智雄委員、 大槻 芳裕委員、山内 佳子委員、藤原 亨委員、田畑 保子委員、 西垣 義之委員、門尾 幸子委員、石塚 和彦委員、吉良 哲也委員、 畑 美和子委員、打田 哲夫委員、北山 美幸委員、野村 隆委員、 近藤 紀子委員、十倉 直子委員</p> <p>【事務局】 まちづくり部長 谷水 仁、市民活動課長 山崎 和也、 生涯学習係長 福田 みさ代、地域協働係長 前田 大志、 生涯学習係主幹 藤原 真理、生涯学習係主査 田中 駿</p> <p>【関係部署】 学校教育課長 小森 真一、社会教育・文化財課長 吉住 健吾、 社会教育・文化財課副課長兼社会教育係長 足立 恵一</p>
欠席者	松井 崇好委員、小村 香織委員
傍聴者	0名
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 出席者自己紹介 4. 会長、副会長選出 5. 会議の公開・非公開の決定について 6. 審議会について 7. 「生涯学習」について 8. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期丹波市生涯学習基本計画について (2) 丹波市における直近の現状 <ol style="list-style-type: none"> ①令和7年度 丹波市生涯学習に関するアンケート調査 ②事業実施状況 9. 意見交換 10. 次回審議会の予定について 11. 閉会

資 料	<p>～配付資料～</p> <p>【会議次第】</p> <p>【第2期丹波市生涯学習基本計画】※委員持参</p> <p>【資料①】出席者名簿</p> <p>【資料②】令和7年度 丹波市生涯学習に関するアンケート調査 結果</p> <p>【資料③】事業実施状況</p> <p>【資料④】関連規程</p>
会議摘録	
発言者	発言の要旨
事務局	<p>1. 開会</p> <p>皆様、こんばんは。</p> <p>本日はご多用のところ本会議にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから第1回丹波市生涯学習推進審議会を開催いたします。</p> <p>本日の会議は、委員20名中17名のご出席をいただいております。</p> <p>(※開会時点は17名であったが、最終的に18名出席)</p> <p>したがいまして、丹波市生涯学習推進審議会設置条例第6条第2項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>進行にあたりまして、まず資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料1～4について順番に確認、新委員への「メールアドレス確認書」の提出依頼)</p> <p>また、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>ご発言いただく際にはマイクをお持ちいたしますので、お名前を仰っていただいた後にご発言くださいますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは次第に沿って進めさせていただきます。</p>
事務局 林市長	<p>2. 市長あいさつ</p> <p>開会にあたりまして、丹波市長 林時彦よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>皆様、こんばんは。夜分遅くありがとうございます。</p> <p>見渡しますと、丹波市の錚々たるメンバーに来ていただいていると思います。よろしく願いしたいと思います。</p> <p>公私ともにお忙しい中、本審議会の委員にご就任を賜り、深く感謝申し上げます。</p> <p>さて、本審議会は、令和7年9月末に策定しました「第2期丹波市生涯学習基本計画」の進捗管理や、今後の生涯学習推進に関する方策等につきまして、委員の皆様それぞれの多岐に渡るご経験、ご見識をいかしていただき、幅広い観点から審議いただく場です。</p> <p>人口減少と少子高齢化の進行、地域コミュニティの希薄化等、急速に変化してまいります社会や複雑化する地域課題に対応していくためには、絶えず学び続けること、多様な主体との「つながり」を創出し連携・協働していくこと、学んだ成果を他者や地域に還元していくことが必要不可欠であり、そのために生涯学習が果たすべき役割は極めて大きいと思います。</p> <p>この審議会が、皆様自身の学びあいの場、つながりづくりの場となり、学びを広げ、深めていくきっかけとなれば幸いです。</p> <p>これから2年間、計画の基本理念である「やりたいことが、このまちにあるこどもも大人もワクワクしながら学びあうまち」の実現に向けて、皆様と共に</p>

	対話を重ねていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	<p>3. 出席者自己紹介</p> <p>本日は新体制初めての審議会ということで、お一人ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>時間も限られておりますので、詳細な経歴や思い等は、これからの話しあいの中で存分に語っていただくとして、一旦は所属と氏名を仰っていただく程度の紹介をお願いいたします。</p> <p>それでは、資料1の名簿順をお願いいたします。</p>
各委員、職員	～名簿順に自己紹介（委員→職員）～
事務局	<p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>なお、市長は公務の都合のため、ここで退席させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
林市長	皆様、よろしくお願いいたします。
事務局	<p>4. 会長、副会長選出</p> <p>それでは、続きまして、会長・副会長の選出に移ります。</p> <p>本審議会は、丹波市生涯学習推進審議会設置条例第5条に基づき、会長及び副会長を置くこととなっております。</p> <p>会長及び副会長の選出について、委員の皆様から何かご意見はありますでしょうか。</p>
各委員	事務局一任で。
事務局	<p>それでは、事務局一任の声をいただきましたので、事務局より提案させていただきます。</p> <p>会長に、岡田龍樹委員、副会長に、大槻芳裕委員にお世話になりたいと思います。皆様、よろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、会長に岡田龍樹委員、副会長に大槻芳裕委員にお世話になりたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>就任にあたりまして、一言ずつごあいさつを頂戴したいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>丹波市とは2012年以来のお付き合いで、お手元にあります「第2期丹波市生涯学習基本計画」の策定にも皆様と一緒に携わりました。</p> <p>また、皆様と一緒に生涯学習を考えられることを楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
副会長	<p>前審議会からの引き続きとなります。基本計画は色んな意見を出していただきながらつくっていったのですが、今度はこれを具体的に、どのように運用していくかというところが中心となってくるかと思っております。</p> <p>委員の数も前審議会より多くなっており、様々な立場からご意見をいただくことによって、それが市民に還元されればと思います。</p>

事務局	<p>精一杯務めさせていただきたいと思いますが、話すのはあまり得意ではありません。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。 それでは、以降の進行につきましては、岡田会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p> <p>各委員</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>5. 会議の公開・非公開の決定について</p> <p>運営要領第2条にて、「会議の公開又は全部若しくは一部の非公開は、会長が会議に諮って、これを定める」と規定されております。</p> <p>本日の議事においては、特段、個人情報特定されることはないと考えられますので、公開することとしますがよろしいでしょうか。</p> <p>異議なし。</p> <p>異議なしの声をいただきましたので、本日の会議は公開することといたします。</p> <p>今後の会議につきましても、その都度協議し、決定することといたします。</p> <p>本日、傍聴者、報道関係者の方はいらっしゃいますか。</p> <p>本日はどちらもいらっしゃいません。</p> <p>分かりました。</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>6. 審議会について</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>まずは、この度、本審議会の委員としてご就任いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、今回は新体制最初の審議会となりますが、こういった審議会に関わるのが初めてという委員の方もいらっしゃるかと思いますので、改めて本審議会についてご説明させていただきます。</p> <p>まず、審議会とは、行政の施策について調査・審議する合議制の機関です。</p> <p>審議会を設置する主な意図は、行政職員だけで施策を検討すると視点が偏ってしまい、現場の実情に応じた意見や市民のニーズを十分に反映出来ない場合があることから、それらを補い、多様な市民の意見を取り入れるため、そして、市民が市政に関わることの出来る機会をつくるためです。</p> <p>本審議会のテーマである生涯学習は、あらゆる分野に通ずるものであることから、可能な限り様々な立場や団体の皆様にお声がけさせていただき、この度、ご就任いただいた次第でございます。</p> <p>そして、皆様の立場は、地方公務員法第3条に基づく非常勤の特別職地方公務員であり、審議会にご出席いただく度に、条例に基づき報酬及び費用弁償をお支払いさせていただくこととなっております。</p> <p>任期につきましては、事前にお送りさせていただいた委嘱状に記載のとおり、令和7年10月1日～令和9年9月30日までとなります。</p> <p>一堂に会していただく機会は今回の審議会が初めてとなりますが、既に皆様の任期は始まっておりますので、これまでから委員の皆様個別には、必要に応じて各種ご相談に乗っていただいていたところです。</p> <p>したがって、本審議会は委員の皆様一人一人が生涯学習を推進していく</p>

従って、広い意味で学校で学んでいるこども達は生涯学習をしていると言えます。

特に、大学は社会人入学があるので、正規の学生ではなくても大学を上手く利用して学ぼうという人がいて、その人達は生涯学習をしているということになります。

大学は生涯学習の機関という認識が広がっており、リカレント教育、リスキリング等に利用されています。

家庭教育は、家庭で行われるしつけ等をいいます。

社会教育は、生涯学習とダブってくるので厄介なのですが、学校以外の場所で組織的に行われる教育のことです。

そして、言葉としては学校教育、家庭教育、社会教育と3つありますが、法律上は家庭教育も社会教育に含まれます。

ただ、誰かが働きかけると言っても、家庭の中に外の者が入って、こどもをしつけることは出来ません。これを私事性といいます。

ですので、家庭教育も社会教育ではありますが、家庭教育の中に制度的な教育として踏み込んでいかないこととなっています。

そこで、社会教育として何が出来るかと言うと、親御さん等に、子育てのための学習機会を提供する、といったことになります。

社会教育は非常に幅広く、学校教育以外で行われる制度的・組織的な教育ということであれば、実は大半のものが社会教育の範疇に入ります。

その中に、行政が行っているものだけでなく、民間企業が行っているものもあり、通信教育やお稽古事等も入ってきます。

大きく分けると行政が行っているものと民間企業やNPOが行っているものがあるということになりますが、行政の中でも教育委員会が行っている社会教育と、それ以外で行っている社会教育があります。

教育委員会の外で行っている社会教育は、一般に「社会教育」とは言いませんが、他の部署でも様々な学習機会を提供しているので、広い意味で社会教育と言えます。

学習者側からすると、学校へ行ったり、色々な講座等に行けば、そこで学習が出来るということになります。

多くの場合は、「教える人がいて、学びたい人が学ぶ」という形で成立していますが、P1の概念図に「個人による学習」という項目があり、「特定の組織等によらず、学習者個人が自分の意思で学ぶこと」と書いてあります。

誰かに頼って学ぶだけではなく、本を読む、新聞を読む、といったことも生涯学習となります。

丹波市生涯学習基本計画では、1人で学ぶ人は放っておいたら良いのか、個人で学ぶ人は対象外なのか、と言うとそうではありません。

P21に、推進体制図があります。(※第1期計画のもの。第2期計画の推進体制図はP61参照)

ここに「まなびの里づくり協議会」とあり、これが現在は丹波市生涯学習推進審議会となっているので、我々はここにいることになります。

市民の多様な生涯学習を推進していくために、ここで協議したことが行政を通じて、情報提供、学習機会の提供、学習支援という形で市民に向かっていきます。

それを利用して学習機会に足を運ぶ市民や、得た情報をいかして個人で学ぶ市民が出てくる、そういった形で人々の学習を推進していこうとしています。

制度としての学校教育、社会教育は行政が行う場合が多いですが、「もっとこうしたら良いのではないか」といったことが問われていますし、ここで意見を出して市民の学習に供するように変化させていくことに繋げる、それが我々の役割です。

	<p>教育の変化だけでなく、まちづくりという視点も必要です。</p> <p>丹波に住んでいるから心が安らぐ、小川のせせらぎや綺麗な花といった環境が維持されているから、その人がより良く生きれる、といったこともあり、それらの整備は非常に重要なこととなります。</p> <p>丹波で暮らして、丹波で生きて、皆が助けあって自分自身のウェルビーイングも高めていく。そのためにまちづくりをどうしていけば良いか、ということは全て生涯学習に関わってきます。</p> <p>より良いまちにするために教育制度を変える、人々が学習出来るよう情報提供していく、自然環境も維持していく、そういった活動も視野に入れながら検討していくこととなります。</p> <p>そうすると、とても大掛かりな話で、ものすごく広範に及ぶこととなりますが、それを全部は出来っこないので、それぞれ、現状で何が課題になっているかを見極めながら、「ここをもう少しこうしたら良くなるのではないか、学びやすくなるのではないか」ということを議論いただければと思います。</p> <p>審議会のメンバーが増え、多様な方に集まっています。</p> <p>「自分にとっての生涯学習はこれだ」、「今これが上手くいっていないが、どうしたら良いのか」といったことをこの場に挙げて、どうすれば良いか皆で考えよう、ということになるかと思います。</p> <p>人間、生きている限り学んでいるのですが、自分だけが良くなるだけではなく、皆と一緒に良くなっていけばより良いわけですから、学んだことを他の人のために、自分が働きかける側になる、ということも通じて学びを進めていくということになります。</p> <p>国の生涯学習に関する世論調査等で、ボランティア活動も生涯学習に位置付けられています。人のために何かをすることは学習ということですから。</p> <p>そして、生涯学習はまちづくりと関わっているということです。</p> <p>余計に頭がこんがらがりましたか。</p> <p>話せば話すほど難しい概念で、上手く説明出来たか分かりませんが、そのようなところです。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>せっかくの機会ですので、今のお話の中で、皆様から何かご質問や新たな気付き等があればぜひ共有いただければと思います。</p> <p>何かございませんでしょうか。</p> <p>委員</p> <p>私が今、取り組んでいる活動には、小さな子どもさんから年配の方まで関わっています。</p> <p>また、ボランティア活動や民生委員の活動等、色々とさせていただいております。</p> <p>生涯学習は、自分も育ちますが、周りの人をどのように育てていくかという視点が必要で、そのためには良い環境、人との関係性が重要だと思います。</p> <p>丹波市は緑に囲まれ、山並みを見渡すと心が落ち着きます。そこには梅も咲いているし、また桜も咲きます。</p> <p>そういったことも生涯学習だというお話を聞き、委員になった時は生涯学習と聞いて、すごく難しいと感じていましたが、日々の生活の中に生涯学習は生きているのだと思いました。</p> <p>これから今のお話を参考にしながら、自分も含め、より良い丹波市づくりに取り組んでいきたいです。</p> <p>事務局</p> <p>ありがとうございます。他にございますでしょうか。</p> <p>各委員</p> <p>～意見なし～</p>
--	---

事務局	それでは、進行の方を会長にお返しいたします。
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>8. 報告事項 (1) 第2期丹波市生涯学習基本計画について</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>先ほどの会長のお話と被ってくる部分もございますし、内容については皆様お目通しいただいていると思いますので、ポイントのみ、かいつまんでお話をさせていただきますと思います。</p> <p>生涯学習を通じて市民の皆様に自己実現を図っていただき、幸せな毎日を送っていただきたい、ウェルビーイングを実現していただきたいと思っているわけですが、丹波市としては「好きなことを学んで終わり」ではなく、せっかく学ばれた成果を他の方であったり、地域に還元していただくことを大切にしたいと考えています。</p> <p>学んだことを皆で共有し、学びを広げていくことで、人口減少・少子高齢化、地域コミュニティの希薄化といった複雑化する地域課題にも対応していける、持続可能なまちになっていくものと考えており、そのために何が必要かを体系化したものがこの計画であり、前の審議会委員の皆様と幾度もの審議を重ねてまとめあげました。</p> <p>表紙にもありますとおり、この計画は令和8年から令和16年までの期間を対象としています。</p> <p>社会情勢は日々変わっていきますので、その都度議論をして、アップデートしながら進めてまいりたいと考えています。</p> <p>P13に、1つ前の第1期計画のイメージ図を掲載しています。</p> <p>第1期計画では、基本理念を「たんばにひろげる まなびの輪」とし、「まなび人」：学ぶ人を増やす、「まなび力」：更に学びを深める、力をつける、「まなび里」：学んだ成果を地域に還元する、という「知識循環型生涯学習」の考え方に基づいて計画を推進していました。</p> <p>P49に、今回の第2期計画で描く基本理念のイメージ図を掲載しています。</p> <p>第2期計画においても、第1期計画で培ってきました「知識循環型生涯学習」、学んだ成果を地域づくりにいかす、という考えを根底に置いた上で、基本理念を「やりたいことが、このまちにある こどもも大人もワクワクしながら学びあうまち」とし、それを実現するにあたって大切にしたいキーワードを3つ掲げています。</p> <p>1つ目は「楽しく学ぶ」、2つ目は「ワクワクしてつながる」、3つ目は「一緒にやってみる」です。</p> <p>やはり、「楽しく」、「ワクワク」といった気持ちがないと何事も続いていけないということで、そんな気持ちも大切にしたいということと、複雑化していく地域課題に対応するには、「一緒にやってみる」ということがポイントになってくると考えています。</p> <p>そして、こういった活動を支えるのは、人と人との対話であり、取り組む人同士の良好な人間関係や雰囲気といった「学びの土壌」があることが大前提となってくると思います。そして、それを耕すことが重要であるということはこの図で示しています。</p> <p>また、「楽しく学ぶ」、「ワクワクしてつながる」、「一緒にやってみる」というサイクルが、単に左から右に一方向に向かっていくのではなく、矢印同士が重なりあって循環しているところもポイントです。つまり、入口やきっかけは人により様々であり、そのどれもを尊重することを示しています。</p> <p>これらのキーワードに基づいて、この計画で取り組んでいく基本方針や、方針を具体化するための施策を体系化したものがP51～52の図となります。</p> <p>基本方針1は「誰もが楽しみながら学ぶことができるきっかけづくり」とし</p>

	<p>て、多様なニーズに応じた学びの場づくりやデジタル化の進展といった学習環境の変化への対応、対象者にあわせた情報発信や関連施設の整備等に取り組んでいきます。</p> <p>基本方針2は「みんなの『やりたいこと』を支える人づくり・つながりづくり」として、人と人、人と地域をつなぐコーディネーター的な人材の育成や活躍促進、人と人をつなげる仕組みづくり、といったことに取り組んでいきます。</p> <p>基本方針3は「学んだ成果をいかしながら活躍できる地域づくり」として、家庭・学校・地域の連携強化や各種団体等との連携・協働、または地域の中で誰かの「やりたいこと」を支えることが出来る人づくり等を位置付けています。</p> <p>P64には、この計画の数値目標を示していますが、ここは後程のアンケート結果の報告の部分で触れたいと思います。</p>
会長	<p>しっかりとした基本計画が出来上がっており、前からずっと読んでいくのは大変かも知れません。そういったところで、概要版もつくられております。</p> <p>1人が学んで1人で良くなるのも生涯学習ですが、せっかく学んだなら、それが皆と共有されて、丹波に住んでいると自然と皆が学べて、それによって課題も解決して住みやすいまちになっていく、それを進めていこうという計画です。</p> <p>ご質問いかがでしょうか。</p> <p>計画が出来ていたということは、ここにいる皆様はご存知でしょうけど、一般の市民の方はいかがでしょう。</p> <p>こういった冊子はどこかで入手出来るのでしょうか。</p>
事務局	<p>部数の関係もあり、「冊子」という形での「配布」はしていません。</p> <p>市ホームページでデータを公開しております。</p> <p>必要に応じて、直接お配りしている相手方はいます。</p>
会長	<p>市民の方が生涯学習をしようと思った時に、この計画を知っていないと生涯学習が出来ない、ということはないです。</p> <p>ただ、我々としては、自分の生涯学習もする一方、「市民の生涯学習をどうしていったら良いだろう」ということも考える必要があるため、我々の理解を深める上でのテキストにはなると思います。</p> <p>市民の方から、「丹波市はどういったことをしているのか」と聞かれた際も、計画を見ていただければ分かるようにはなっています。</p> <p>結構なページ数があり、たくさん文字があって読みにくいかも知れませんが、前の審議会で言葉1つ1つを議論して、完成に辿り着いたんです。</p> <p>計画をつくりながら、委員皆が生涯学習を学んできたと言えます。</p> <p>自分が当たり前にする言葉が、市民からすると分からない場合があるということにも気付かされました。</p> <p>だからと言ってこれが絶対ではなく、「こうした方が良かったのではないか」ということも出てくるかも知れません。そういったところも議論出来ればと思います。</p>
委員	<p>私も社会教育・生涯学習に長く携わっており、審議会にも入らせていただいております。</p> <p>昔も今もそうですが、周りの友人と話していると、「そんなことは好きな人がしておけば良い」、「趣味があれば、それをしておけば良い」といった話になってくるんです。</p> <p>何故こういった審議会の中で考えていく必要があるかということですが、P22に「生涯学習と地域づくり」という項目があり、そこに丹波市自治基本条例の</p>

<p>会長</p>	<p>説明が載っています。</p> <p>丹波市自治基本条例第 21 条に、市民の方は学習する権利を持っているので、市長は学習機会を確保し、それを保障する必要があると規定されています。</p> <p>その上で、行政だけに任せていると、偏るとは言いませんが漏れ落ちることもあるので、様々な立場の意見を頂戴するというのがこの会であると思います。</p> <p>この計画をつくる際も、色んな意見が出て、その上で成り立っているということも補足したいと思います。</p> <p>自治基本条例は非常に重要な条例となります。</p> <p>「丹波市を運営していくのは市民の皆様です」ということが書かれていますが、これは行政が責任逃れをしているのではなく、「行政だけでは出来ないことがこれからどんどん出てくるのだから、丹波市に住んでいる皆様と一緒に自治という視点でこのまちを維持していこう」という条例です。</p> <p>これは非常に重要で、これからはますますそういう形になっていくと思います。</p> <p>だから、生涯学習ということで、市民つまり「学ぶ側」からの計画がここに立っているということです。</p> <p>今日は初顔合わせなので、発言も躊躇されるかも知れませんが、そのうち仲良くなって、フランクに色んなことを発言いただけるような会議にしたいと思います。</p> <p>今日の会議で聞き忘れた、言い忘れたということがあれば次回にまた仰っていただければと思います。</p> <p>(2) 丹波市における直近の現状</p> <p>①令和 7 年度 丹波市生涯学習に関するアンケート調査</p>
<p>事務局</p>	<p>資料②をご覧ください。</p> <p>こちらは、生涯学習に取り組む市民の意識を調査するために 11 月末から 12 月中旬にかけて実施したアンケートの結果です。</p> <p>対象は 15 歳から 89 歳までの市民 1,000 人で、住民基本台帳から無作為抽出して実施しました。</p> <p>1,000 名に送付して返ってきたのが 302 件であり、約 30%の方に回答いただいています。</p> <p>先程、第 2 期丹波市生涯学習基本計画において数値目標があるとお話しましたが、それがこの「6. 回答結果」の部分です。</p> <p>この目標をどれだけ達成出来たかを、このアンケートで測っています。</p> <p>目標の 1 つ目「1 年以内に生涯学習を行った市民の割合」は、最終目標 80% に対し、53.6%でした。</p> <p>2 つ目「学びの活動で身についた知識や技能を地域や社会での活動にいかしたいと思う市民の割合」は、最終目標 55%に対し、26.8%でした。</p> <p>3 つ目「住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気があると思う市民の割合」は、生涯学習に取り組むには、安心して発言出来る雰囲気であったり、誰に対しても開かれた場が必要不可欠ということで、「学びの土壌」の豊かさを測るための指標です。最終目標 50%に対し、18.2%でした。</p> <p>4 つ目「住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会があると思う市民の割合」は、最終目標 50%に対し、27.8%でした。</p> <p>なお、R6 基準値から下がっている項目もありますが、今回、計画が新しくなることにあわせて設問の仕方や選択肢を見直したり、対象年代を広げたり、と</p>

いったことをしておりますので、それが回答の結果にも影響を及ぼしている部分があることを付け加えておきます。

いずれの項目も目標値に到達しておりませんので、引き続き目標達成に向けて取り組んでいく必要があります。

次ページ以降、各設問の結果を載せておりますが、時間も限られておりますので、この場では「生涯学習について」の項目のみ触れようと思います。

まず、問1「この1年間に、どのような生涯学習をしましたか？」という問いに対し、1番多い回答が「していない」という回答でした。

実際は、大体の方が何かしらの活動はされているものと思いますが、ご自身の活動を生涯学習と捉えられていない場合があったり、生涯学習という言葉に対するイメージの持ち方によるところが大きいのではないかと思います。

問1-2「生涯学習で身につけた知識や技能・経験をどのようなことにいかしたいですか？」では、1番多い回答が「自分の人生を豊かにすること」でした。

自己実現というのが生涯学習のスタートで、まずはここが大事です。

しかし、市としては、「地域や社会をよりよくすること」にもいかしたいと思う人を増やしていきたいという想いを持っているところです。

問2「お住まいの地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気があると思いますか？」、問3「お住まいの地域では、学びたいことを学べる機会があると思いますか？」は、地域に焦点をあてた設問となっておりますが、どちらも共通して1番多いのは「分からない」という回答でした。

「思う」、「思わない」という明確な回答ではなく、そもそも「分からない」ということは、地域とのつながりの希薄化であったり、普段の暮らしの中で地域を意識する瞬間が少なくなっていることの現れではないかと思われま

す。資料②のP5には、これらの設問を年代別に集計した表を付けております。

この表の問2の部分を見ていただきますと、若い年代ほど「分からない」という回答割合が多く、年代が上がるにつれて「分からない」よりも「思う」、「思わない」という明確な回答が多くなっております。

若い年代と地域との関わりというところに課題がありそうです。

「思わない」人が一定数いるのも課題ですが、あくまで地域と関わった上でそう思われている。「分からない」は、そもそも地域と関わりがない。そこに大きな課題があるのではないかと思います。

他にもスポーツや文化芸術等、幅広い分野の設問項目があるのですが、時間の都合もありこの場で全てには触れられないため、それぞれお目通しいただき、お気付きの点や「これを見てこう思った」ということがあれば共有いただきたいと思

②事業実施状況

続いて資料③です。

こちらは、生涯学習の所管課である市民活動課で実施している事業についてまとめたものです。

たくさんありますので、かいつまんで説明いたします。

まずP2の青少年健全育成事業について、令和6・7年度は新聞記者体験を実施しました。

これは、こども達が地元の企業等取材し、そこで体験したことを新聞記事にするという内容で、令和6年度は兵庫パルプ工業株式会社さん、令和7年度は株式会社ゆめの樹野上野さんにご協力いただきました。

こども達が地域資源を知る、こどもに関わる大人を増やす、大人もこども達と関わる中で学んでいただく、という取組です。

事務局

そして、計画で示している企業や団体との連携・協働に関する取組の1つでもあります。

その下には1月に実施した「二十歳のつどい」の様子を掲載しています。二十歳を迎えられた有志数名で実行委員会を組織し、当日のアトラクションの企画・運営を担っていただきました。

単なるお祝いの会ではなく、企画・運営を通じて互いに学びあう場として開催しています。

P3以降は、高齢者の学びの場であるシニアカレッジについて掲載しています。

スマホトラブル、地域医療、健康寿命、丹波竜等、多種多様なプログラムを組んでいます。

「希望のカタチプログラム」は、受講生自身がその場の企画・運営を担っていただき、その中で学んでいただく取組です。

コロナ禍前までは300名程の受講生がおられました。現在は35名程度で推移しているので、今後の展開として、高齢者だけで学びを完結させるのではなく、世代間交流が出来、学びを循環出来るような「市民カレッジ」として実施していこうという構想を持っています。

P5では、地域高齢者学級や障がいのある方の生涯学習の場である身体障害者社会学級について掲載しています。

P6は、地域づくりについてです。

丹波市は、生涯学習を最終的に地域づくりに繋げていくことを大事にしています。

旧小学校区単位に自治協議会という組織を置き、住み慣れた地域に住み続ける持続可能な住民自治の実現、地域の課題を住民が主体的に解決する取組、地域の特性や個性をいかした取組を行っていただいています。

P7には、各自治公民館の活動支援、研修の様子等を掲載しています。

P8、9は今年度初めて行った取組です。

P8の「まなび☆ときめきミーティング」ですが、これは、基本計画について知っていただく場、そして「そもそも生涯学習とはどんなものなんだろう」、ということらを皆で考える場として設定し、当時の審議会委員の皆様と一緒に作りあげました。

当日のアンケートでは、約7割の方が「生涯学習という言葉へのイメージが変わった」と回答されています。

「それなら、自分もやっているな」、「生涯学習と聞くと、高齢者の学びのようなイメージがあったけど、そうではないんだな」といったように、生涯学習という言葉へのハードルが下がり、「自分も何かやってみよう、新しいことを始めてみよう」と思っただけは一定の成果と思います。

P9には、「まなび☆ときめきフェス」について掲載しています。

生涯学習に取り組む上での障壁の1つに、「発表する機会がない」、「一緒に取り組む仲間がない」といったことが挙げられます。

そういった人を救い上げ、学びを広げていくきっかけづくりとして実施しました。

当日は、ジオラマを作っておられる方、マジックを個人的に学んでおられる方、ラジコンを作っておられる方、絶滅危惧種の保護に関する活動をされておられる方等、多種多様な方に集まっていただきました。

発表者と参加者が互いに学びあう場となり、発表者同士でも「それ、面白いな」、「自分もやってみたいな」といった形につながりが生まれていたことが印象的でした。

参加者のアンケートでも、約6割の方が「新しいことを始めてみたい」と回

<p>会長</p> <p>各委員</p>	<p>答されており、学びを広げるきっかけづくりが出来たと考えています。 また、地域の潜在的な人材を発掘することが出来たことも、この事業の成果と考えています。</p> <p>以上となりますが、ここで紹介したのは、あくまで生涯学習所管課である市民活動課の取組です。 他の部署でもスポーツや文化芸術イベント、防災や福祉に関する講座等、多岐に渡って生涯学習に通ずる取組を実施しております。 また、行政だけではなくNPO、民間企業、自治会・自治協議会でも多種多様な取組をされています。 従って、基本計画で示すように、あらゆる分野は生涯学習・地域づくりに通ずるものという考えの下に、様々な人や団体と連携・協働して取り組んでまいりたいと考えています。 説明としては以上となります。</p> <p>何か質問等はございますでしょうか。</p> <p>～意見なし～</p>
<p>会長</p> <p>委員</p> <p>会長</p>	<p>9. 意見交換</p> <p>それでは、今までの説明に関することに限定せず、自由にご意見を頂戴する時間といたします。何かございますでしょうか。 生涯学習そのものに間違いはなく、「こんなこと聞くのは恥ずかしい」ということもありません。 ふと思ったことを発言いただければ、それが周りの人の学びになります。遠慮なく、ご意見いただければありがたいです。</p> <p>初めて参加させていただき、すごく学びが一杯ありました。 今後参加させていただくに当たって、ゴールはないとは思いますが、この計画は長いスパンのものになります。 何か「見える化」というか、「何%」ということではなく、市民の方が「丹波市はすごく学びに関する取組をやっているまちだ」ということが分かるようにしたいと思っております。 自分もボランティア活動をしており、そこでたくさんの方のことを学んだりしますし、年齢も多様で高校生から80代の方もおられます。 何かゴールというか、この中で何かが出来たら良いなと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>この会議が何回開かれるか分かりませんが、紙ベースの話で議論するだけでは「何なんだろう」という気には確かになります。 色々な立場の方がいらっしゃる中で、その中でご自身の活動を報告いただいたりする中で、「そんな活動があるのか」ということをまず知ることが大事だと思います。 その中で、「それを真似してみよう」ということが生まれ、それが上手くいけば報告していただく、というような会になれば良いなと思いますね。 「今日はこんなことが分かった」、「ここがつかえているけど、こうしようとしているんだな」ということが共有出来れば。 「会議をやったから、これが変わった」ということが実感出来れば楽しいです。 何か一歩進んだ、分かったという会議にしたいし、そんな会議をぜひ開催していただきたいと思っております。 市民的な立場からの活動の報告、行政の取組に関する報告、そういったことをお互いに聞かせていただければ。</p>

<p>委員</p>	<p>会長からボランティアの話がありました。 社会福祉協議会では、ボランティアを支え、活躍していただくためにボランティア・市民活動センターを持っていますので、そういったことから、この審議会に入っているのかなと考えています。 コロナ禍を経て、ボランティアの高齢化もあり、数は減ってきています。以前は旧町ごとに支部がありましたが、今は氷上と春日にしか支部がありません。 どのボランティアグループも高齢化で「私達が最後、これ以上は無理」と言われる方が多いです。 しかし、登録団体としては市内で81、人数は1,500人おられます。 色々な出張教室やふれあいサロン等にお繋ぎして皆様の活躍を支え、人材をつくっていらっしゃるようです。 「くらし応援隊」として軽度の要支援の方のお家に入って行くボランティアや、ケアが必要な母子世帯等に入って行く支援員さん等、有償ボランティアを養成する仕組みもございます。 活躍いただける人が増えることで、支援される側ではなく、支援する側でいつまでも活躍していただくこと、自分の出来ることで活躍いただける方を増やしていくことが大事と考えています。 社会福祉協議会も、生涯学習の取組をしっかりと進めていかなければならないと感じたところです。</p>
<p>会長</p>	<p>誰かのために何かをしようと思うと、それを継続するためには仕組みやお金絡みの話になります。 生涯学習は「お金が絡んではいけない」というようなところがありますが、きっちりとペイするような、事業化した活動で生涯学習を維持していくことも大切です。 公費で運営されている部分は多数ありますが、皆のために事業化し、それが1つの仕事になるという形での学習の継続もこれからの課題になってきます。 福祉の領域ではこれから人手が必要になってきます。 その人達が全体的に高齢化していくと、皆で支えあう仕組みをどのようにつくっていくのか、ということは重要なテーマとなります。 教育と福祉は分けられないところがあり、日常生活からすると労働も福祉も教育も1つなので、幅広く考えていければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>地域学校協働活動を柏原中学校でしており、中学生が地域へ出て行ってボランティアに参加するということはとても大事だなということで、校長先生と話をしながら取り組んでいます。 実は私も校長で退職しましたので、その時から中学生はどんどん地域に出ていく必要があるということは、強く感じておりました。 今、実際に出て行ってきており、数として多いわけではないですが、夏祭りが出るゴミを仕分けしたり、近々であれば柏原の雛めぐりをこれからされるので、今度の土日もお雛様を飾るのに延べ10名くらい出ると思います。 ただ、養成も出来ないし、中学生も忙しいのは忙しいので、なかなか難しいですが、続けて4年目になり少しずつ定着している状況にあります。 少子高齢化・人口減少の中で、こどもは外へ出て行ってしまう傾向があり、小学校から中学校、高校の間に、どれだけ地域と結びついているかということがとても大事と思っています。 小学校は地域との結びつきをそれぞれつくっておられると思いますが、中学校もより良く地域とのつながりが持てるようになっていけば良いんじゃないかと思っています。 それぞれ各町にお住まいの方、「こういう人がおられますよ」ということがあれば、中学校の校長先生に連絡いただくと良いかと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>文科省が一生懸命進めているのは、学校と地域の連携・協働です。</p>

	<p>地域の人が学校へ入っていく、こどもは地域で色々なことを学ぶ。 学校の中だけの学びでは社会で通用しなくなっているの、そういう活動が展開しているということです。 学校で勉強したことが社会で何の役に立つのかはこどもにとって関心事ですので、それを地域の人に教えてもらえます。</p> <p>中学生くらいになると、人のために何か出来るわけです。 その中で有用感、人のために役立っているということを感じられる機会を提供することも大事ということになります。</p> <p>冊子の P22 に、「生涯学習と地域づくり」ということで、『自治協議会』は、概ね小学校区を単位とする地域内において多様な主体で構成される組織であり、自治協議会自らが策定する地域づくり計画に基づき、地域がめざす将来像の実現に向けた活動を行っています」と書いてあります。 今ちょうど、令和 8 年度から令和 18 年度までの将来像である地域づくり計画を、どこの自治協議会も策定しているところです。 令和 8 年度から 1 年間かけて策定します。 策定委員さんは何をしたら良いのか、どうしたら良いのかということで非常に悩んでおられ、日夜、寄って計画を練っておられます。 小学生や高齢者にアンケートを取って、「将来、この地域をどうしたいのか」といったことを聞き取り、進めていくところです。 「生涯学習と地域づくり」ということで、丁度マッチしている会議でありますので、我々が学んだ成果を他者や地域に還元するというので、何か、「こうしたら良いのではないか」という意見があれば、自治協議会のメンバーに言っていたらと計画づくりの役に立つと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員	
会長	<p>自治協議会は概ね小学校区単位に組織されるということですが、今は何校区あるのでしょうか。</p>
委員	<p>25 校区です。 学校は統合しているので 25 もありませんが、自治協議会は 25 あります。</p>
会長	<p>どこも悩んでおられるのだとすれば、その 25 の自治協議会の情報共有が上手く出来れば、解決策が見出せるかも知れませんね。 そんなところにも役に立てればと思います。</p>
委員	<p>アンケートの結果、数値目標について、どうしたら数値が伸びていくのかを考えていました。 地域の中でスポーツクラブの活動をしています。 自分達はやっている側なので、自分達の活動を皆が認知してくれているものと思ってしまうのですが、実際はそうではありません。 毎月のように全戸にチラシを配っても、見てくれる人がどれだけいるのかということを考えると、あまり知られていないということも思ったりします。 情報発信はすごく大事だと思います。 今回の審議会で新しいつながりが出来ると思うと嬉しいのですが、そういったつながりをいかして情報発信をしていくことが、数値を上げるために必要ではないかと思えます。 どういう発信の仕方があるかはそれぞれの団体によっても様々で、その方法もまた「情報」だと思えますが、つながりをいかして発信が出来れば、少しずつでも数値は伸びていくのではないかと感じました。</p>
会長	<p>何らかの団体を運営されている方は皆同じことを考えておられるかと思えます。高齢化していき、今までの方がリタイアされていく中で、どうしていけば良いだろうかということが課題です。</p>

委員	<p>それは団体の課題でもあり、全体の課題でもあります。 そういった情報提供のプラットフォームをつくるとか、それはどうすれば出来るかなといったところも、今後の議論になってくるかと思います。</p> <p>丹波市の老人クラブは、兵庫県の中で1番人数が少ないです。 「頑張っって欲しい」と言われていますが、何をしたらいいか分からない。 皆様を楽しませることは出来ます。グラウンド・ゴルフ、モルック、囲碁ボール、料理教室等色々やっており、高齢者は喜びます。 ただ、それ以外に関わろうとしないのです。 それに対してどのように関わっていけば良いのか。皆様と一緒に学習したいと思いますが、どのように持っていけば良いのか分かりません。 老人クラブは柏原、氷上、春日の3つの支部で支えており、それ以外は脱退されました。 役員になる人がおらず、若い人で70歳前半、後は90歳以上の人が車を運転して、その車に5人程乗っておられます。「危ないから辞めて欲しい」と言っていますが、それが実情で、その人が運転しないと他の人は学びに行けないのです。 それを解消したいと思っており、もっと近場で楽しいことをして、子ども達と遊んでもらったり、何かを勉強してもらったり、子ども達の役に立って欲しいと思っていますが、それをするきっかけがない。 そこをどうすれば良いか教えて欲しいと思っています。</p>
会長	<p>移動というのは、これから難しい課題になってきます。 必要なものを手に入れるためには、どこかに行かないといけない。 福祉の問題でもあり、モビリティの問題でもある。 これは学びにも大きく関わってきます。</p>
委員	<p>長らく日本語支援に関わってきました。 日本語支援も生涯学習と思うのですが、今の段階では「楽しく学ぶ」という段階までいっていないかなと思いました。 基本計画の概要版がありますが、おそらく外国人の方は、能力試験1級を持っている人でも読めないと思います。 ということは、基本計画自体が、外国人の方には皆目分からないものなのではないかと感じました。 技能実習生がたくさん来られています。 2017年からは新しいシステムがスタートしているのですが、その新しいシステムでは、3年間日本で働いた後、日本語と自分が習得した技能の試験を受けて合格しないと、もう1つ上のランクの特定技能という在留資格が得られません。 日本語を習得出来なければ国に帰らないといけない、仕事がないという目の前の現実があるので、必死です。 楽しく余裕を持って丹波市で生活していただけるようになるには、未だ時間がかかると感じました。</p>
会長	<p>在留外国人のことは計画策定の際もあまり議論はされていませんでしたね。 実習制度も変わっていきますし、これからどのように外国人を受け入れるのかということは大きな課題であり、改めて議論していければと思います。 事務局、教育委員会の方からも、色々情報共有いただければと思います。</p>
委員	<p>JRの谷川駅前シェアキッチン「サンキッチン」をオープンしました。 元々のいきさつは、買い物支援のために「サンマルシェ」を立ち上げたことに始まります。 「サンマルシェ」は、今年の5月で6回目を迎えますが、1,000人以上が来てくれるイベントになり、「毎月開催して欲しい」と言われています。</p>

	<p>しかし、地元住民5人で運営しているため今の形が精一杯で、毎回することは出来ませんが、たまたま駅前に空き物件が出来たので、そこを集いの拠点にしようとしてリノベーションして、シェアキッチンにしました。</p> <p>歩いて行く場所に買い物や集う場所をつくるということを、色々と難しいことは抜きにして、自分が一番楽しんでやっています。</p> <p>やりたいことがたくさんある中で、部活を立ち上げようと思っており、名前は「たこ焼きクラブ」と決めています。</p> <p>部員を募集して、駅前で高校生やこどもが帰ってくる時間にたこ焼き屋をオープンして、店主は地域の人がコロコロと変わって担い、部員はたこ焼きを焼いて地域を賑やかにする、という感じでやろうと思っています。</p> <p>1年後くらいにこの話が入ってきたら、「部活が出来たんだな」と思っていたら、入って来なかったら廃部と思っていたら良いです。</p> <p>緩いのですが、背中を押せば来てくれて、「入部したい」と子育てが少し落ち着いた同世代の方も言ってくれています。</p> <p>レシピは1個で「たこ焼きクラブの味」ということにして、「美味しくないと」言われても、「それは仕方ない。これは自分じゃなくて、たこ焼きクラブの味だから」というくらい無責任で良いので、地域に集いの場をつくらうとしています。</p> <p>それが成功事例として出来たら、どこでも出来ると思います。</p> <p>公民館で月に1回たこ焼きを焼く、といったことをすれば、若い人も来てくれるのではないかと思います。</p> <p>食べ物をきっかけにすると簡単に年齢等のハードルを越えられるので、何かの役をするのは大変ですが、一步目のハードルを楽しく越えて、地域で楽しいことをしていけたらと妄想中です。</p> <p>今後の進捗をこの場で共有させていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>面白いですね。</p> <p>交通の要所ですので、他市からも人が来るくらい盛り上がれば良いですね。</p>
<p>委員</p>	<p>計画の中に、生涯学習施設の老朽化が課題であると書かれています。</p> <p>それは、整備計画の中で進めていかれるものかと思っています。</p> <p>山南住民センターは、故障したトイレが修繕されておらず、状況を尋ねると「改修計画があるから待って欲しい」ということでした。</p> <p>10年間くらいの計画であり、時代と共に状況が変わってくるという中で、施設の整備についても協議出来ればと思います。</p> <p>計画には、「こどもを巻き込んだ取組を」ということが書かれています。</p> <p>他の施設は分かりませんが、山南住民センターのトイレは、こどもが和式トイレを使えない、和式トイレのレバーを力がないから押せない、といったことがあります。</p> <p>計画の中に、こども達を含め様々な方の社会的包摂を謳っているのですが、ソフト面だけでなく、所謂ハード面の進捗も報告いただけるとありがたいです。</p> <p>あくまでも意見となります。</p>
<p>事務局</p>	<p>公共施設の個別施設計画といって、市全体の施設についてこういった形で大規模改修をしていくのか、いつ実施するのかといった計画があります。</p> <p>今の現状で言いますと、統合庁舎をどうするのかといった話がまず先に出てきてしまい、生涯学習関連施設の改修時期が遅れている実情があります。</p> <p>山南住民センターのトイレに関するその時の回答は、「大規模改修時に一緒に直します」という意味合いかと思っています。</p> <p>他の施設も相当年数が経過しており老朽化しています。</p> <p>計画に記載しているということは、行政としてそこを本気でどうしていくべきか考えないといけない、そのための予算もつけないといけない、ということになります。</p> <p>ここで議論が出来れば、それが予算獲得への材料にもなります。</p>

<p>会長</p>	<p>公共施設全体を考える中で、安心・安全で快適な環境をつくることは必須であり、一緒になって考えていければと思います。</p> <p>お金もかかることですが、こちらから後押しが出来るような形で進めていければと思います。</p> <p>時間になりました。</p> <p>今日ご発言出来なかった方は、ぜひ次回ご発言いただければと思います。</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>10. 次回審議会の予定について</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>次回の審議会の予定ですが、次第に記載のとおり、令和8年5月下旬～6月上旬頃に開催予定としています。</p> <p>ちょうど年度替わりの時期であり、職員も委員の皆様も異動や役職の変更等の動きがあるかと思っています。</p> <p>ですので、この場では日程までは決めず、そのご報告だけに留めさせていただき、4月以降に改めて調整・案内をさせていただきます。</p> <p>議題としては計画の推進・進捗管理が主要なものとなります。</p> <p>次に議事録についてです。</p> <p>これまでは、次に開催する審議会にて議事録公開の承認を得た上で市ホームページにアップするという手続きを取っていたのですが、次の審議会まで日が空きますし、その間に委員の方の交代があることも考えられます。</p> <p>ですので、議事録を作成次第、皆様にメールで流させていただき、一定の確認期間を設け、その間に確認いただくという形を取りたいと思います。</p> <p>修正箇所があればご連絡いただき、修正がなければそのまま公開、という形で進めさせていただきます。</p> <p>加えて、皆様のお話を聞いておりますと、共通した悩みを抱えておられることがあるなと思いました。</p> <p>同じ悩みがあるということは、関わりしろがあるということで、連携・協働していける余地が生まれるのではないかと感じました。</p> <p>この審議会に出席いただいている団体同士で、「一緒にやってみる」取組が生まれれば、ぜひ報告いただけるとありがたいです。</p> <p>「あの人の報告を聞いて、それを自分の団体で試してみたら上手くいった」ということも、ぜひ共有いただきたいです。</p> <p>そうすることで、会議が有意義なものとなり、満足度が上がっていくと思います。</p> <p>行政としても、ここで出た意見を吸い上げて施策に反映したり、何らかの仕組みを変えることに繋がりたいと考えています。</p> <p>皆様の団体の中でも、ここで出た意見を踏まえて活動に取り組まれる中で成果が出れば、それはこの会議の成果と言うことが出来ます。</p> <p>成果を「見える化」していけば、より良い会議になるとと思います。</p> <p>一緒にこの会議、生涯学習を盛り上げていければと思います。</p>
<p>会長</p> <p>副会長</p>	<p>11. 閉会</p> <p>本日はこれで終了となります。</p> <p>最後に、副会長よりごあいさつをお願いいたします。</p> <p>2時間があったという間でした。</p> <p>多様な団体から参加していただき、それぞれ悩みを共有して行って、少しでも良くなれば、それは全てこの基本計画を広げていくことに繋がっていくと思いつながりながら、それぞれのお話を聞かせていただいております。</p> <p>次回、更に議論が盛り上がれば良いなと思います。お疲れ様でした。</p>

